

都市システム工学科 履修モデル（2020年度入学生向け）

都市システム工学科のカリキュラムには、必修科目のほかに豊富な選択科目が用意されています。選択科目の数はたいへん多いので、脈絡なく履修していくと学習効果が上がり、必要な専門性が身につかない恐れもあります。自らの目指す進路、就きたい職業・職種に合わせて、低学年時から計画的に履修していくことが望ましいです。

そこで都市システム工学科では、いくつかの職業・職種を例とし、履修モデルを作成しました。「入学直後なのに将来就きたい職業なんて想像できない」と思う方も多いかもしれませんが、将来の進路についてこの機会に一度考えてみるとともに、各年次の履修登録や、3回生進学時のコース配属希望の参考にしてください。

- ・履修モデルは、当学科卒業生の就職実績の多い、以下の6つの職業・職種について作成しています。

1) 総合建設業	2) 官公庁の土木職	3) 設計エンジニア
4) 計画・環境コンサルタント	5) 建設系企業の情報部門	6) システムエンジニア

- ・それぞれの職業・職種に就くことを想定して、

「必修科目」	「履修を強く勧める科目」	「履修が望ましい科目」
--------	--------------	-------------

の3種類を示しました。このうち「必修科目」は、3回生時に2つのコース（「都市インフラ設計コース」と「社会システム計画コース」）のどちらかに配属されるかによって異なります。2つのコースでは、卒業までに身につけてほしい専門性が一部異なるためです。「必修科目」の中には、どちらかのコースでしか履修できない科目もありますが、2コース共通の「必修科目」や、どちらのコースに配属されても選択できる科目もあります。詳しくは、『HANDBOOK2020 大学要覧』を確認してください。

- ・各職業・職種の履修モデルは、「都市インフラ設計コース」「社会システム計画コース」のいずれかに配属された場合を想定して作成されています。しかし、3回生のコース配属によって就職先が限定されてしまう、というわけではありません。

例えば、「総合建設業」の履修モデルは「都市インフラ設計コース」の配属者を想定して作成されています。しかし、「社会システム計画コース」の配属者でも、履修モデルで示された「必修科目」や「履修を強く勧める科目」をうまく選んで履修することによって、総合建設業で必要とされる科目の習得も可能です。低学年時から、卒業後の進路を視野に入れた履修登録を心掛けてください。

- ・測量士補の資格取得（卒業後、申請することで取得可能です）には、「測量学」「応用測量学」「測量学実習」の修得が必要です。